

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成 30 年 10 月
福岡市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

(小学校調査)

- ・小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年

(中学校調査)

- ・中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査 [国語，算数・数学，理科]

国語，算数・数学それぞれ「A主に知識に関する問題」と「B主に活用に関する問題」を出題。理科については、「知識に関する問題」と「活用に関する問題」をあわせて出題。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査日時

平成 30 年 4 月 17 日 (火)

(小学校調査)

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	4 時限目終了後以降
国語 A，算数 A (各 20 分)	国語 B (40 分)	算数 B (40 分)	理科 (40 分)	児童質問紙 (20 分程度)

(中学校調査)

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	5 時限目終了後以降
国語 A (45 分)	国語 B (45 分)	数学 A (45 分)	数学 B (45 分)	理科 (45 分)	生徒質問紙 (20 分程度)

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

児童生徒に対する調査について、平成30年4月17日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

②集計児童生徒数（4月17日に調査を実施した児童生徒数）

（小学校第6学年）

国語A	12,654人
国語B	12,650人
算数A	12,654人
算数B	12,655人
理科	12,660人

（中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年）

国語A	11,270人
国語B	11,273人
数学A	11,263人
数学B	11,259人
理科	11,255人

③集計学校数

（小学校第6学年）

小学校 143校（志賀島小は，調査対象児童がいない為，未実施）

（中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年）

中学校 68校（小呂中は，調査対象生徒がいないため，未実施）

特別支援学校 1校

2 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、本市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、本市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも本市の学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問紙調査や学校に対する質問紙調査の結果からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果の概要

①教科に関する調査結果の概況

小学校調査		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
福岡市(市立)	平均正答率	72.5	56.3	64.3	52.0	61.9
全国(公立)	平均正答率	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
福岡市(市立)	標準化得点	102.4	102.3	101.1	102.0	103.1
全国との比較		+1.8	+1.6	+0.8	+0.5	+1.6

※福岡市(市立)平均正答率は、市教委算出

※標準化得点：全国(公立)の平均正答率が100となるよう標準化した値で、福岡県の算出方法による

◆国語A、国語B、算数A、算数B、理科の5分類すべてで全国平均を上回る。

中学校調査		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
福岡市(市立)	平均正答率	76.6	62.2	66.7	48.6	66.7
全国(公立)	平均正答率	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
福岡市(市立)	標準化得点	100.8	101.8	100.8	103.0	100.6
全国との比較		+0.5	+1.0	+0.6	+1.7	+0.6

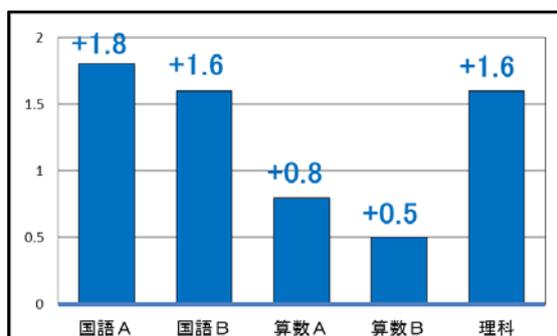
※福岡市(市立)平均正答率は、市教委算出

※標準化得点：全国(公立)の平均正答率が100となるよう標準化した値で、福岡県の算出方法による

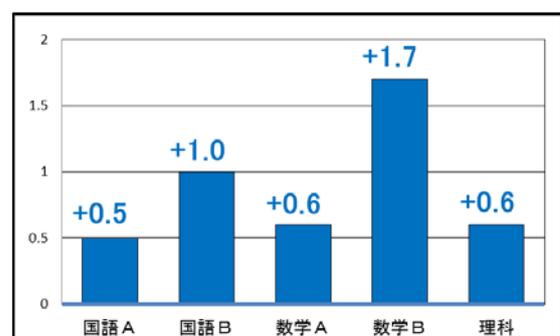
◆国語A、国語B、数学A、数学B、理科の5分類すべてで全国平均を上回る。

②全国と福岡市の平均正答率の差

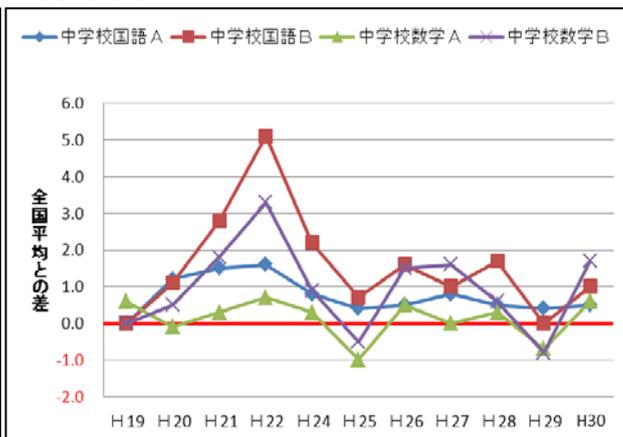
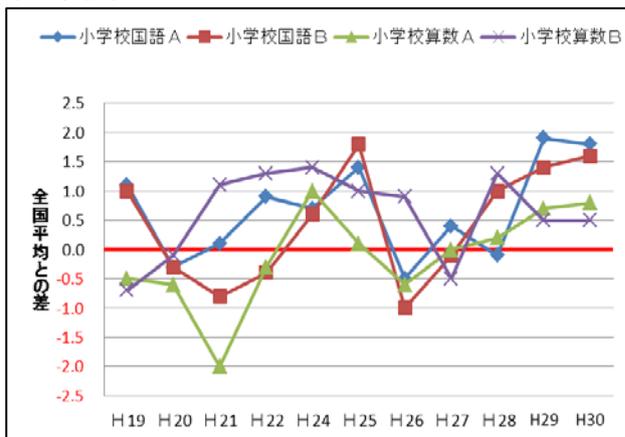
【小学校】



【中学校】



③分類ごとに見た全国と福岡市の平均正答率の経年比較（平成 19 年度～平成 30 年度）
 (小学校)



(小学校)

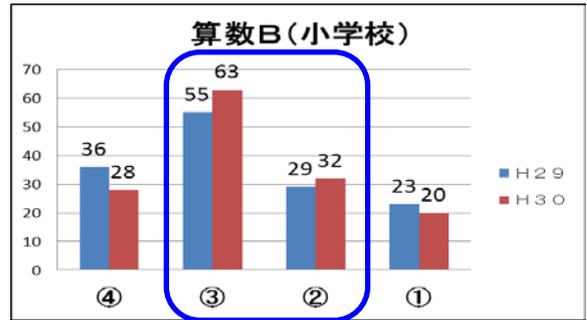
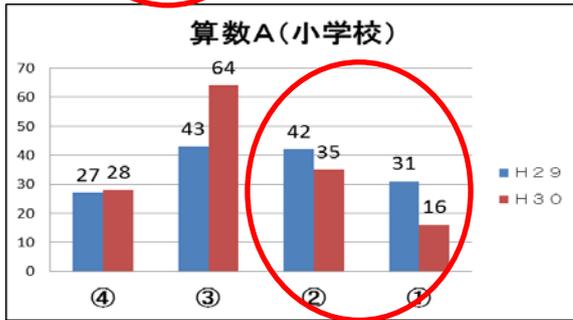
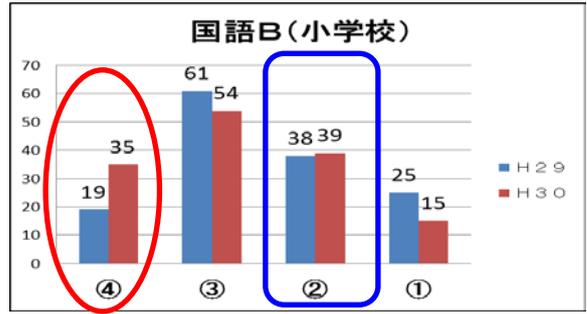
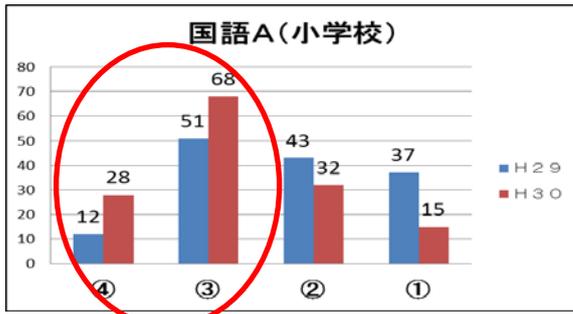
- ◆国語Bが前年度比で0.2ポイント、算数Aが前年度比で0.1ポイント上がっている。
- ◆国語Aが前年度比で0.1ポイント下がっている。
- ◆理科は平成27年度と比較して1.3ポイント上がっている。
- ◆全体的に向上傾向が見られ、ほぼ前年比で推移している。

(中学校)

- ◆国語Aが前年度比で0.1ポイント、国語Bが前年度比で1.0ポイント、数学Aが前年度比で1.3ポイント、数学Bが前年度比で2.5ポイント上がっている。
- ◆理科は平成27年度と比較して0.6ポイント下がっている。
- ◆すべての分類が0～+2ポイントの中で推移していた平成26～28年度と同程度まで向上している。

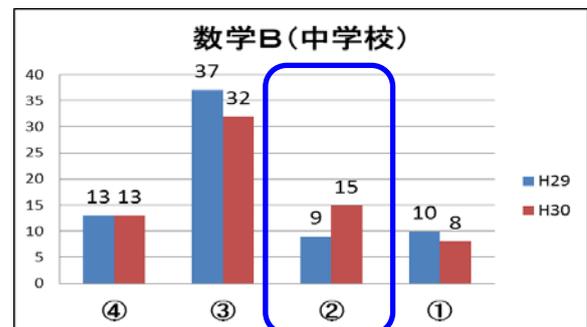
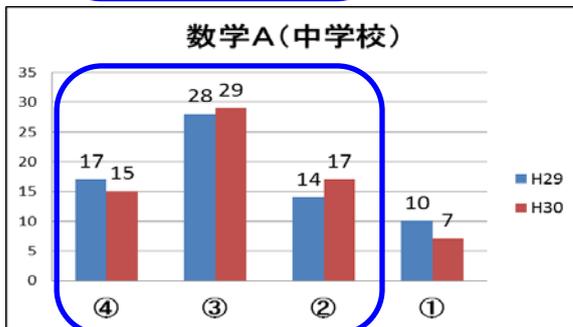
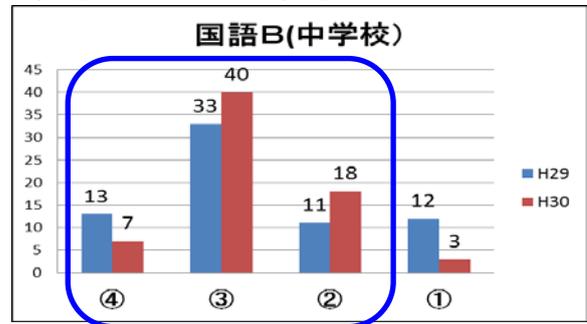
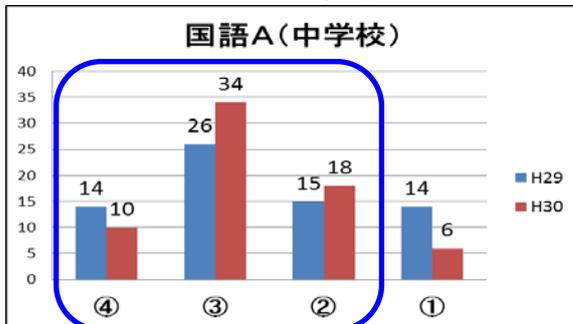
④ 4段階の学校群ごとの校数（昨年比）

（小学校）①上回っている，②やや上回っている，③同程度である，④努力を要する



- ◆国語Aは，下位群（④）と中位群（③）の校数が増え，上位群（①）（②）の校数が減っている。国語Bは上位群（②）が，増えているが下位群（④）も増えている。
- ◆算数Aは，上位群（①）（②）の校数が減り，中位群（③）の校数が増えた。算数Bは上位群（②）と中位群（③）の校数が増えている。

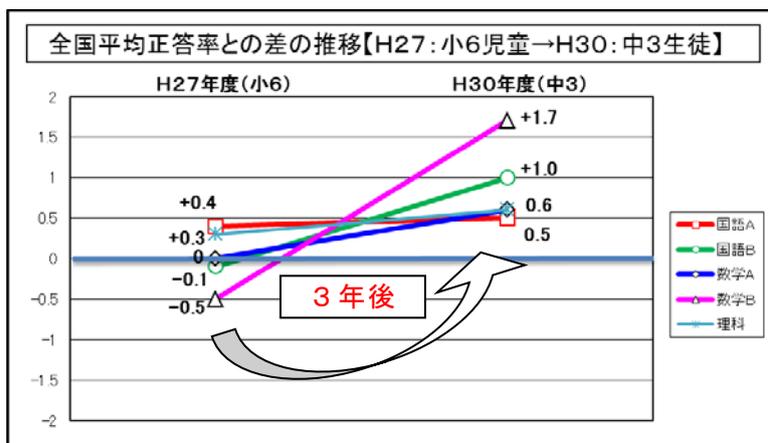
（中学校）①上回っている，②やや上回っている，③同程度である，④努力を要する



- ◆国語A，国語Bは，上位群（②）と中位群（③）の校数が増え，下位群（④）の校数が減っている。
- ◆数学Aは，国語A，Bと同様，上位群（②）と中位群（③）の校数が増え下位群（④）の校数が減っている。数学Bは上位群（②）の校数が増えている。

⑤ H27 年度小 6， H30 年度中 3 の同一児童生徒群結果の経年比較

○平成 27 年度の小 6，平成 30 年度の中 3 の同一児童生徒群結果の経年比較



すべての分類で上がっている。
 国語A +0.1ポイント
 国語B +1.1ポイント
 数学A +0.6ポイント
 数学B +2.2ポイント
 理科 +0.3ポイント

◆小学校 6 年生時（平成 27 年度）においては、国語 A，理科が全国平均正答率を上回っていた。3 年後の中学校 3 年生時（今年度）の調査においては、すべての分類で全国平均正答率を上回っている。中でも、数学 B に関しては、小学校 6 年生時と比較して 2.2 ポイント上がっている。

○平成 27 年度の小 6，平成 30 年度の中 3 の同一児童生徒群結果の観点別の比較（国語）

国語 A	H27小学校	H30中学校	小から中の伸び
	全国との差	全国との差	
教科全体	0.4	0.5	0.1
国語への関心・意欲・態度			
話すこと・聞くこと（能力）	7.7	1.1	-6.6
書くこと（能力）	0.7	1.1	0.4
読むこと（能力）	-0.6	2.0	2.6
言語についての知識・理解・技能	-0.2	0.2	0.4

国語 B	H27小学校	H30中学校	小から中の伸び
	全国との差	全国との差	
教科全体	-0.1	1.0	1.1
国語への関心・意欲・態度	-1.8	1.7	3.5
話すこと・聞くこと（能力）		-0.5	
書くこと（能力）	-0.5	2.0	2.5
読むこと（能力）	-0.2	1.7	1.9
言語についての知識・理解・技能		2.5	2.5

◆国語においては、A，Bともに中学校 3 年時で小学校 6 年時よりも伸びている。領域別にみると「話すこと・聞くこと」以外の「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」において伸びが見られる。

(算数・数学)

算数・数学	H27小学校	H30中学校	小から中の伸び
	全国との差	全国との差	
教科全体	0.0	0.6	0.6
算数への関心・意欲・態度			
数学的な考え方			
数量や図形についての技能、数学的な技能	-0.3	0.7	1.0
数量や図形についての知識・理解	0.3	0.6	0.3

算数・数学	H27小学校	H30中学校	小から中の伸び
	全国との差	全国との差	
教科全体	-0.5	1.7	2.2
算数への関心・意欲・態度			
数学的な考え方	-0.4	1.8	2.2
数量や図形についての技能、数学的な技能	-0.7	1.5	2.2
数量や図形についての知識・理解	-0.6		

- ◆算数・数学においても国語科と同様，A，Bともに中学校3年時で小学校6年時よりも伸びている。領域別にみると「数学的な考え方」「数学的な技能」「数量や図形についての知識・理解」のすべての観点において伸びが見られる。

○学校質問紙から

平成26、29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

	H27(小6時)	H30(中3時)	伸び
肯定的回答率	96.5	98.5	
全国との差	0.7	2.5	1.8

全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。

	H27(小6時)	H30(中3時)	伸び
肯定的回答率	97.2	92.8	
全国との差	5.3	1.0	-4.3

- ◆全国学力・学習状況調査の結果の分析や活用、具体的な指導計画等の反映などについては、小学校6年時、中学校3年時とも全国を上回っており、小学校でも中学校でも取組を充実させていることがわかる。

○児童生徒質問紙から

朝食を毎日食べていますか

	H27(小6時)	H30(中3時)	伸び
肯定的回答率	94.2	90.8	
全国との差	-1.4	-1.1	0.3

毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか

	H27(小6時)	H30(中3時)	伸び
肯定的回答率	90.3	92.5	
全国との差	-0.7	2.2	2.9

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

	H27(小6時)	H30(中3時)	伸び
肯定的回答率	62.2	49.1	
全国との差	-0.6	-3.0	-2.4

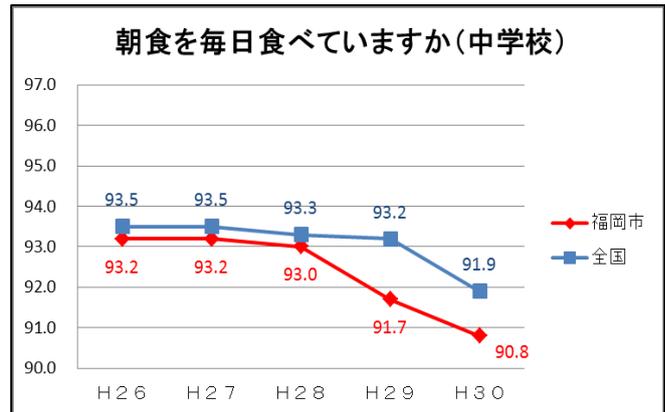
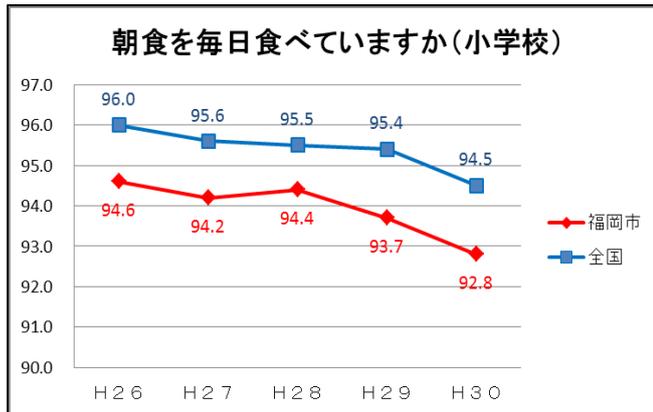
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

	H27(小6時)	H30(中3時)	伸び
肯定的回答率	78.5	68.1	
全国との差	-2.5	-2.9	-0.4

- ◆「朝食を食べること」や「同じ時刻に起きること」など基本的な生活習慣の定着については、中学校3年時で小学校6年時に比べ伸びが見られる。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強すること」については、下降している。また「算数・数学の授業の理解」については、小学校6年時、中学校3年時とも全国平均を下回っており、課題であるといえる。

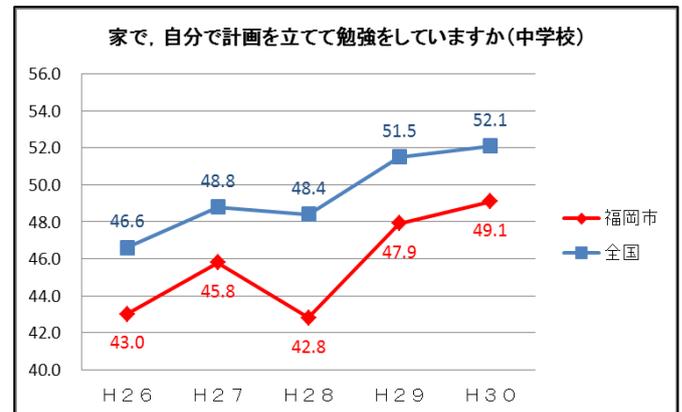
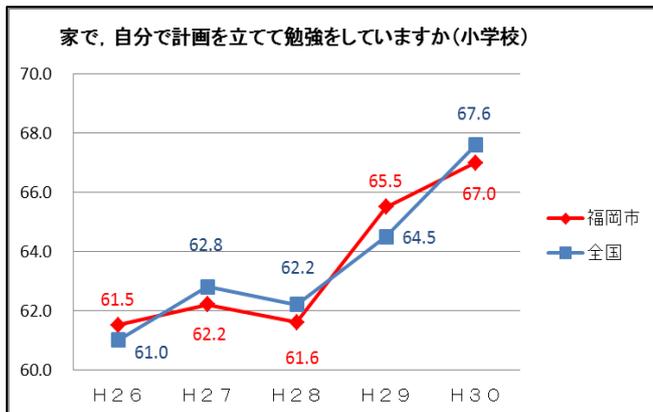
⑥生活習慣や学習習慣の定着状況

朝食を毎日食べていますか（児童生徒質問紙 平成26年度からの経年比較）



- ◆「朝食を毎日食べていますか」という児童生徒質問紙については、小学校において全国平均と同様に下降し続けている傾向にある。また、福岡市は、全国平均に比べやや低い値で推移している。
- ◆中学校においても、小学校と同等の傾向が見られる。また、平成28年度までは全国平均とほぼ同様であったが、平成29年度、平成30年度と全国平均との差がやや開きつつある。
- ◆文部科学省は、これまでも朝食と学力に相関があると述べている。本市においては、小中学校ともに全国平均を下回っていることから、今後も取組の充実を図る必要がある。

家で、自分で計画を立てて勉強していますか（児童生徒質問紙 平成26年度からの経年比較）



- ◆「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」という児童生徒質問紙については、小学校においては、全国平均とほぼ同様であるとともに、上昇傾向が見られる。
- ◆中学校においては、小学校と同等に上昇傾向が見られるもののやや全国平均を下回る傾向が見られる。
- ◆文部科学省は、家庭学習の取組状況と学力とに相関関係があると述べている。本市においては、中学校が全国平均を下回る傾向にあるため、家庭学習の取組に関して今後も充実を図る必要がある。

⑦ H29 年度, H30 年度の分類別正答率分布

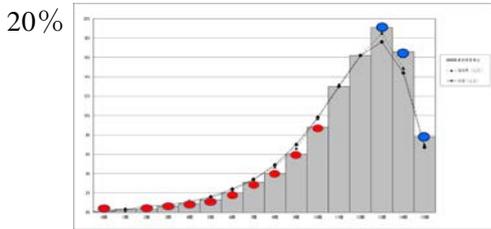
横軸：正答数 縦軸：割合

全国正答率分布より ● 上回っている ● 下回っている

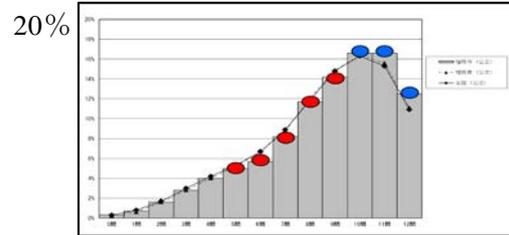
福岡市 ■ 福岡県 ▲ 全国 ◆

小学校国語 A

平成29年度

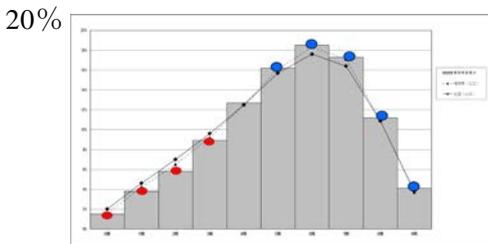


平成30年度

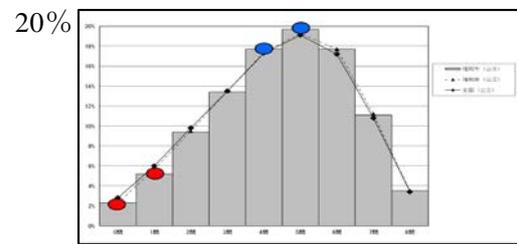


小学校国語 B

平成29年度

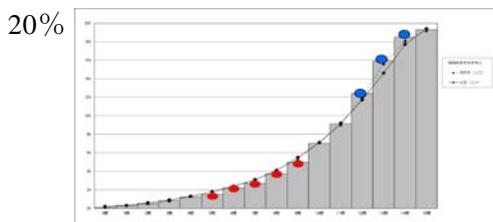


平成30年度

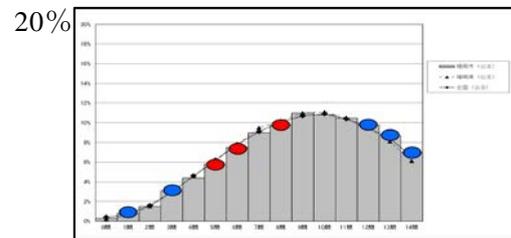


小学校算数 A

平成29年度

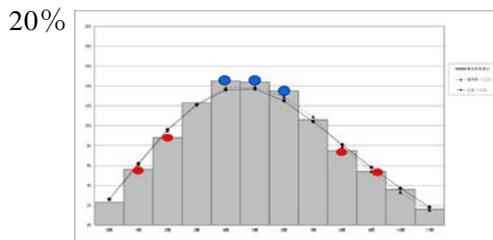


平成30年度

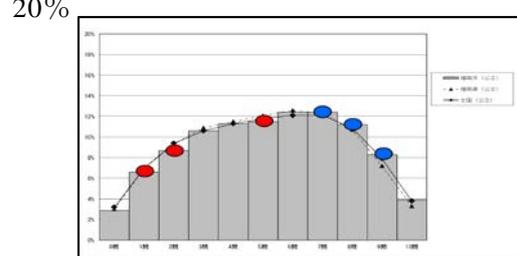


小学校算数 B

平成29年度

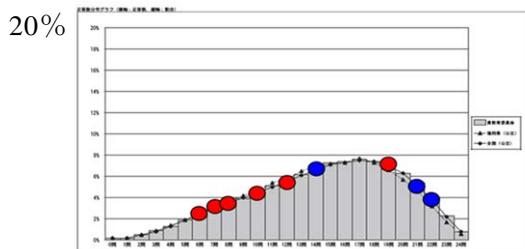


平成30年度

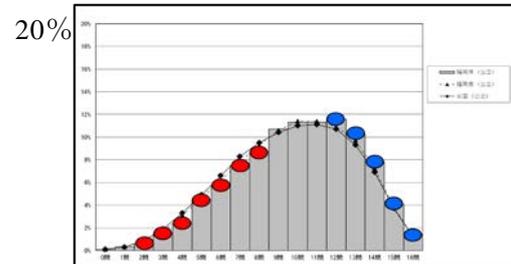


小学校理科

平成27年度



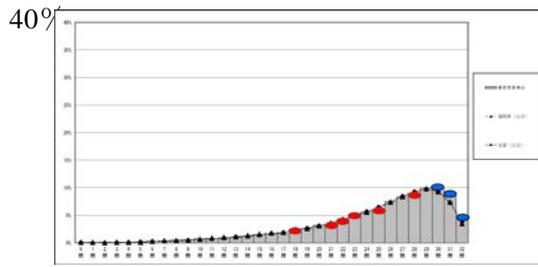
平成30年度



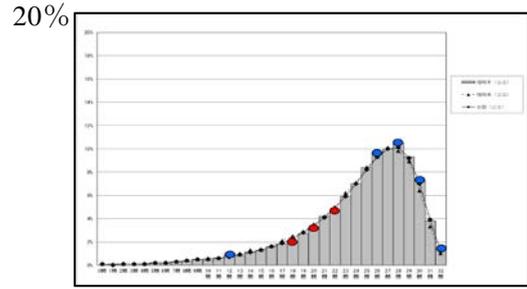
- ◆国語Aでは、上位層の割合が全国を上回っている。一方で、昨年度は、下位層と中位層の割合が全国を下回っていたが、本年度は、中位層が全国よりも下回っている。国語Bでは、上位層は全国とほぼ同程度となっており、下位層の割合が全国を下回り、中位層の割合が全国を上回っている。
- ◆算数Aでは、昨年度下位層から中位層の割合が全国に比べ少なくなっていたが、本年度は、中位層の割合が全国を下回り、上位層、下位層の割合が全国を上回っている。また、算数Bでは、上位層の割合が全国に比べ上回っている。
- ◆理科では、上位層の割合が全国に比べ上回り、下位層の割合が全国に比べ下回っている。

中学校国語 A

平成29年度

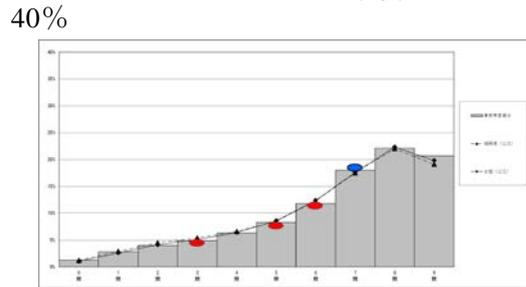


平成30年度

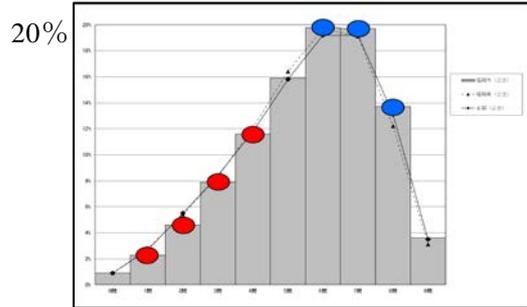


中学校国語 B

平成29年度

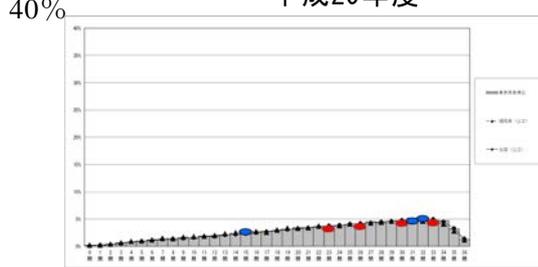


平成30年度

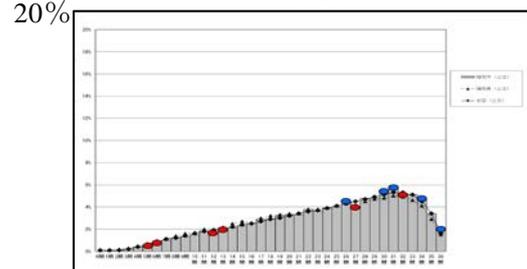


中学校数学 A

平成29年度

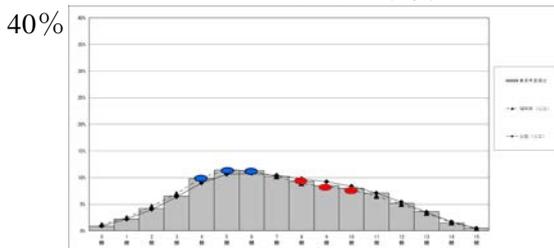


平成30年度

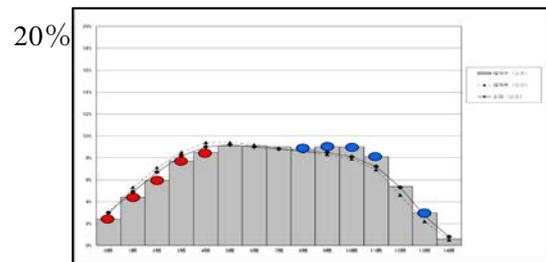


中学校数学 B

平成29年度

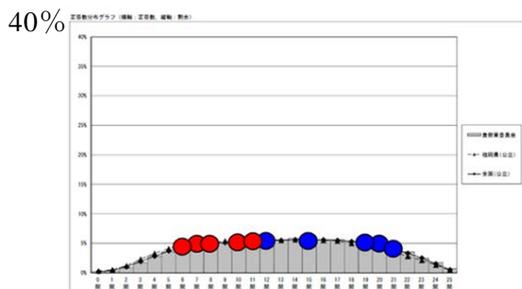


平成30年度

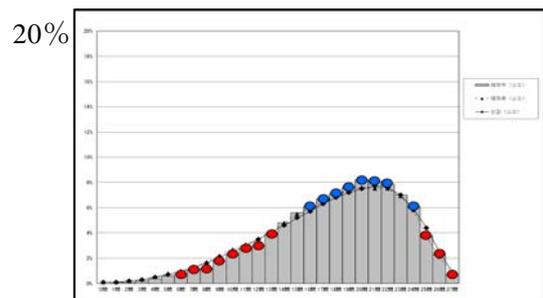


中学校理科

平成27年度



平成30年度



- ◆国語Aでは、中位層が減少し、上位層の割合が増加している。国語Bでは、下位層が減少し、上位層が増加している。
- ◆数学Aでは、下位層の割合が全国に比べ減少し、上位層の割合が全国に比べ増加している。数学Bでは、昨年度に比べ、上位層の割合が増加している。併せて、下位層の割合が減少している。
- ◆理科では、上位層と下位層の割合が全国より下回っているものの、中位層の割合が絵全国を上回っている。

(3) 小学校国語に関する調査結果について

① 観点・領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分 (小学校国語)	A (主に「知識・技能」の正答率)		B (主に「活用」の正答率)	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	72.5	70.7	56.3	54.7
国語への関心・意欲・態度	/	/	32.6	33.2
話すこと・聞くこと (能力)	92.5	90.8	66.7	64.6
書くこと (能力)	76.7	73.8	45.8	45.6
読むこと (能力)	75.6	74.0	50.5	50.8
言語についての知識・理解・技能	68.2	67.0	/	/

- ◆国語Aはすべての観点で、国語Bは「話すこと・聞くこと」「書くこと」で、全国平均を上回っている。
- ◆国語Bは「国語への関心・意欲・態度」「読むこと」で、全国平均を下回っている。

② 平均正答率が高かった問題と低かった問題

(正答率が高かった問題)

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	事例などを挙げながら筋道を立てて話す 慣用句の意味を理解し、使う	92.5	90.8	+1.7
		91.3	90.4	+0.9
国語B	話合いの参加者として、質問の意図を捉える 司会の役割について捉える	85.4	82.5	+2.9
		79.2	77.5	+1.7

(正答率が低かった問題)

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	主語と述語との関係などに注意して書く 文の中で漢字を使う	38.9	35.5	+3.4
		53.5	51.4	+2.1
国語B	自分の意見と比べるなどして考えをまとめる 内容の中心を明確にして、詳しく書く	35.6	33.8	+1.8
		13.1	13.5	-0.4

③ 児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問58	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (国語A)	75.2% (全国比 -4.8)
問59	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (国語B)	68.6% (全国比 -6.1)

- ◆児童質問紙調査では、国語A、Bともに「調査問題の解答時間は十分だった」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

※小学校国語の正答率が低かった問題（国語B 2二）

（正答率…市：13.1，全国：13.5 無回答率…市：3.3，全国2.7）

【おすすめる文章】

「かみかみあえ」は、するめが入っているあえ物です。よくかんで食べることから、このよ
うな名前がついています。おうちの人に、この「かみかみあえ」を、サラダやあえ物のメニュー
としておすすめます。

するめはほかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスや
いろどりも考えられています。中華風ドレッシングの味やすめるめのうまみが野菜にしみてこんで
いて、たまらないおいしさです。

特におすすめる理由は、次の二つです。

一つ目の理由は、「かみかみあえ」が、人気のこんだてであることです。

六年一組で以前行ったアンケートでは、サラダやあえ物のうち、好きなこんだての上位三つに
入っていました。六年一組では、「ツナマヨサラダ」と同じくらい人気があるこんだてです。きっと、
ほかの学級でも好きな人が多いと思います。

二つ目の理由は、「かみかみあえ」にむし歯を防ぐ効果があることです。

同じサラダやあえ物の中で人気のこんだての一つである「ツナマヨサラダ」と比べると、「か
みかみあえ」の方が、よりむし歯を防ぐ効果があります。「かみかみあえ」は、

おいしくて、みんなに人気があり、歯の健康を保つことにもつながる「かみかみあえ」をぜひ、
おうちのメニューの一つに加えてください。

小国B-6

2

星野さんは、給食の献立の一つである「かみかみあえ」のよさをもっと知ってもらい、各家庭でも
メニューの一つに加えてほしいと思っています。次は、星野さんが以前書いた「かみかみあえ」に
ついての【紹介する文章】と、それをもとにしておうちの人に向けて書いている【おすすめる文章】
です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

かみかみあえ



【紹介する文章】

「かみかみあえ」は、するめが入っていて、よく
かんで食べるこんだてです。そのため、このような名
前がついています。

するめはほかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの
野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考え
られています。

中華風ドレッシングの味やすめるめのうまみが野菜に
しみています。

※「するめ」はイカを干した食品

小国B-5

三

星野さんは、【紹介する文章】をもとにして【おすすめる文章】を書くときに、どのような
くふうをして書いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から
一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 おうちの人に深く考えてもらうために、経験を思い起こすことができるようにしている。
- 2 おうちの人に納得してもらうために、よい点だけではなく、よくない点も示している。
- 3 おうちの人によさを理解してもらうために、ほかのものと比べている。
- 4 おうちの人に自分のこととして考えてもらうために、疑問を投げかけている。

(条件)

○【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○【おすすめる文章】にふさわしい言葉を用いて書くこと。
○書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内はまとめて書くこと。なお、書き出しの
言葉は字数にふくむ。

※空の欄は縦線は書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましよう。
※の印から書きましよう。どちらの行を変えないで、続けて書きましよう。

か	み	か	み	あ	え	は	。

80字

小国B-8

二

星野さんは、「かみかみあえ」のむし歯を防ぐ効果に着目して【おすすめる文章】の
書くことにしました。そこで、以前メモしていた【保健室の先生の話から分かったこと】を取り
入れてくわしく書くこうとしています。

【保健室の先生の話から分かったこと】

食べ物をよくかむと、

- 口のまわりのきんにくを動かすことになり、のうの働きが活発になる。
- だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくい。
- まんぷく感が得られ、食べ過ぎにならない。
- 食べ物本来の味が分かるので、うす味の食事に慣れる。
- だ液の量が増え、消化がよくなる。

二

星野さんは、【紹介する文章】をもとにして書くときに、「【おすすめる文章】の最初の部分に、
その番号を書きましよう。」のように書いた理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、
その番号を書きましよう。

- 1 疑問を提示し、読者が興味をもって読めるようにするため。
- 2 自分が伝えたいことを述べ、読者の理解を助けるため。
- 3 具体的な例を多く挙げ、読者に納得してもらうため。
- 4 自分の経験を述べ、読者の経験と比べて考えてもらうため。

小国B-7

(4) 小学校算数に関する調査結果について

①領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分 (小学校算数)	A (主に「知識・技能」の正答率)		B (主に「活用」の正答率)	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	64.3	63.5	52.0	51.5
数と計算	65.2	62.3	59.2	58.4
量と測定	71.6	72.7	53.0	52.4
図形	57.4	56.9	60.5	59.9
数量関係	60.3	60.1	46.4	45.1

②観点ごとの調査結果

区分 (小学校算数)	A (主に「知識・技能」の正答率)		B (主に「活用」の正答率)	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	64.3	63.5	52.0	51.5
算数への関心・意欲・態度	64.3	63.5	52.0	51.5
数学的な考え方	64.3	63.5	49.9	49.2
数量や図形についての技能	63.1	63.0	63.1	63.0
数量や図形についての知識・理解	64.7	63.8	75.2	71.7

◆領域ごとでは、算数Aの「数と計算」「数量関係」で、算数Bのすべての領域で、全国平均を上回っている。算数Aでは、「量と測定」で全国平均を下回っている。

◆観点ごとでは、算数A、算数Bともにすべての観点で、全国平均を上回っている。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

(正答率が高かった問題)

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
算数A	混み具合の比べ方を理解している	88.6	87.8	+0.8
	180°の角の大きさを理解している	93.8	94.4	-0.6
算数B	条件に合う図形を見いだすことができる	75.2	71.7	+3.5
	条件に合う時間を求めることができる	72.1	70.5	+1.6

(正答率が低かった問題)

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
算数A	小数の除法の意味について理解している	43.6	39.9	+3.7
	円周率の意味について理解している	41.0	41.6	-0.6
算数B	情報とグラフを関連付け、解釈し、記述できる	22.1	20.7	+1.4
	グラフから読み取れることを、判断できる	25.6	23.9	+1.7

④児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問27	「算数の勉強は好きですか」	63.8% (全国比 -0.2)
問29	「算数の授業の内容はよくわかりますか」	80.6% (全国比 -2.8)
問60	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (算数A)	76.9% (全国比 -3.4)
問61	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (算数B)	61.6% (全国比 -4.4)

(学校に対する質問紙調査結果)

問35	「前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数指導を行い、習得できるようにしましたか」	21.7% (全国比 -13.5)
問36	「前年度に、習熟の早いグループに対して少人数指導を行い、発展的な内容を扱いましたか」	14.0% (全国比 -11.7)
問37	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	96.5% (全国比 +2.2)
問38	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	48.3% (全国比 -16.2)

◆児童質問紙調査では、「算数の勉強が好き」、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均を下回り、算数A、算数Bともに、「調査問題の回答時間は十分だった」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

◆学校質問紙調査では、学習内容の習熟の程度に応じた指導に関して、肯定的に回答した学校の割合が全国平均を下回っている。また、「補充的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を上回っている。一方で、「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

※29年度 (補充的な学習の指導：**-2.3**, 発展的な学習の指導：**-18.3**)

※小学校算数の正答率が低かった問題 (算数B **3**(1))

(正答率…市：22.1, 全国：20.7 無回答率…市：20.7, 全国 18.1)

3

しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。
しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。
しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。

めあて	7月	12月
進んであいさつをする	約520人	約570人
本をよく読む	約350人	約550人

メモ1

- ・「進んであいさつをする」約570人
- ・「本をよく読む」約550人

メモ2

- ・「進んであいさつをする」約50人
- ・「本をよく読む」約200人

えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。

えりか

メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。

まさる

メモ1では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。

しおり

メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

(5) 小学校理科に関する調査結果について

① 枠組みごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分 (小学校理科)	福岡市	全国
教科全体	61.9	60.3
主として「知識」に関する問題	81.0	78.0
主として「活用」に関する問題	58.0	56.2

② 領域ごとの調査結果

区分 (小学校理科)		福岡市	全国
教科全体		61.9	60.3
A 区分	物質	63.9	59.8
	エネルギー	52.9	53.1
B 区分	生命	74.9	73.6
	地球	51.6	49.5

③ 観点ごとの調査結果

区分 (小学校理科)	福岡市	全国
教科全体	61.9	60.3
自然事象への関心・意欲・態度	82.3	82.1
科学的な思考・表現	55.9	54.1
観察・実験の技能	74.3	71.1
自然事象についての知識・理解	83.6	81.5

- ◆ 枠組みごとでは、「知識」に関する問題、「活用」に関する問題ともに全国平均を上回っている。
- ◆ 領域ごとでは、A区分「物質」、B区分「生命」「地球」は、全国平均を上回っている。A区分「エネルギー」は、全国平均を下回っている。
- ◆ 観点ごとでは、すべての観点で全国平均を上回っている。

③ 平均正答率が高かった問題と低かった問題

(正答率が高かった問題)

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
理科	科学的な言葉や概念を理解している	87.3	83.6	+3.7
	異なる方法の実験結果を分析して考察できる	90.6	89.4	+1.2

(正答率が低かった問題)

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
理科	実験結果を基に分析して考察し、記述できる	20.9	20.1	+0.8
	目的に合ったものづくりに適用できる	39.5	41.9	-2.4

④児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問38	「理科の勉強は好きですか」	83.0% (全国比 -0.5)
問40	「理科の授業の内容はよくわかりますか」	88.2% (全国比 -1.2)
問46	「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」	91.5% (全国比 +2.4)
問62	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (理科)	86.3% (全国比 -3.8)

(学校に対する質問紙調査結果)

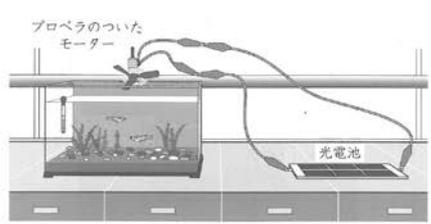
問42	「理科の授業において、前年度に児童の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか」	93.2% (全国比 -2.9)
問43	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	61.5% (全国比 -5.0)
問44	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	45.5% (全国比 -11.0)

- ◆児童質問紙調査では、「理科の勉強が好き」、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。一方で、観察・実験に関しては、全国平均を上回っている。また、「調査問題の回答時間は十分だった」と答えた児童の割合が、全国平均を下回っている。
- ◆学校質問紙調査では、「補充的な学習」と「発展的な学習」を行ったと回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

※小学校理科の正答率が低かった問題 (理科3)(4)

(正答率…市：39.5, 全国：41.8 無回答率…市：0.7, 全国0.6)

ひろしさんたちは、水温を下げるために、光電池で回るプロペラで起こした風を使うことにしました。



プロペラのついたモーター

光電池

光電池の置き方を工夫して、午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにできないかな。

やす子さん

そこで、ひろしさんたちは、光電池を下のような切れこみの入った箱の中に入れて、日光のあたり方を調整することにしました。

光電池を入れる箱

<箱の中を上から見たようす>



正午に箱の中には、右の図のように日光が差しこみます。

日光が当たっているところ

日光が当たらないところ

正午だと箱の中に、このように日光が差しこみ、日光が当たっているところと当たらないところができるね。

ひろしさん

(4) 午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにするには、箱の中で光電池をどのように置けばよいと考えられますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

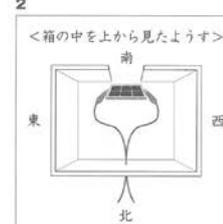
1

<箱の中を上から見たようす>



2

<箱の中を上から見たようす>



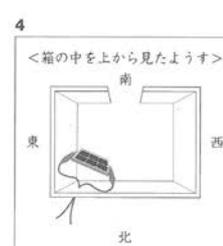
3

<箱の中を上から見たようす>



4

<箱の中を上から見たようす>



(6) 中学校国語に関する調査結果について

① 観点・領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（中学校国語）	A（主に「知識」）の正答率		B（主に「活用」）の正答率	
	福岡市	全国（公立）	福岡市	全国（公立）
教科全体	76.6	76.1	62.2	61.2
国語への関心・意欲・態度	76.3	75.2	52.0	50.3
話すこと・聞くこと（能力）	76.3	75.2	76.1	76.6
書くこと（能力）	75.0	73.9	33.3	31.3
読むこと（能力）	78.7	76.7	55.2	53.5
言語についての知識・理解・技能	76.7	76.5	51.7	49.2

- ◆国語Aでは、すべての領域で、国語Bでは「書くこと」、「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」において、全国平均を上回っている。
- ◆国語Bの「話すこと、聞くこと」が、全国平均を下回っている。

② 平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	漢字を読む	98.1	97.8	+0.3
	漢字を読む	98.3	98.1	+0.2
国語B	質問の意図を捉える	88.3	86.8	+1.5
	話の展開に注意して聞き、質問する	89.5	88.3	+1.2

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	語句を選択する	30.1	29.2	+0.9
	順序や照応、構成を考えて適切な文を書く	18.7	22.3	-3.6
国語B	文章とグラフとの関係から内容を捉える	46.9	45.9	+1.0
	目的に応じて文章を読み、整理して書く	14.8	13.3	+1.5

③ 生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

（生徒に対する質問紙調査結果）

問55	「調査問題の解答時間は十分でしたか」（国語A）	90.2%（全国比 -1.7）
問56	「調査問題の解答時間は十分でしたか」（国語B）	74.5%（全国比 -7.7）

- ◆生徒質問紙調査では、国語A、Bともに「調査問題の解答時間は十分だった」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っている。

※中学校国語の正答率が低かった問題（国語B 1三）
 （正答率…市：14.8，全国：13.3 無回答率…市：6.4，全国7.0）

【資料】

Q 「天地無用」の意味は？
 （全体）

（※下段、■の項目が本来の意味）

- (ア) 上下を逆にしてはいけない…55.5%
- (イ) 上下を気にしないでよい…29.2%
- (ア) と (イ) の両方…1.8%
- (ア)、(イ) とは全く別の意味…4.2%
- 分からない…9.3%

（年代別）

年代	(ア) 上下を逆にしてはいけない (%)	(イ) 上下を気にしないでよい (%)	分からない (%)
16～19歳	36.6	30.5	13.4
20代	46.6	39.3	3.7
30代	54.1	29.6	8.9
40代	61.6	26.5	5.3
50代	63.2	28.2	4.1
60代	60.0	25.2	11.5

（平成25年度「国語に関する世論調査」より）

平成25年度の「国語に関する世論調査」で、「天地無用の荷物」という例文を挙げて、その意味を尋ねました。結果は次のとおりです。

全体では、本来の意味である「(ア) 上下を逆にしてはいけない」を選んだ人の割合(55・5%)が、本来の意味ではない「(イ) 上下を気にしない」を選んだ人の割合(29・2%)を26ポイント上回っています。また、「分からない」と回答した人が1割弱となっています。

年代別に見ると、16～19歳を除く全ての年代で「(ア)」の割合が高いものの、最も低い60代でも25・2%の人が「(イ)」を選んでおり、どの年代でも4人に1人以上の割合で、本来とは逆の意味で考えていることが読み取れます。

「天地無用」は、本来、誤解があったらならない注意喚起の言葉ですから、見過ごせない結果であるといえるかもしれません。

「日本国語大辞典 第2版」(全21巻)より

「天地無用」は、「荷物の上下を逆にしてはいけない」という意味です。段ボール箱の荷物などに、赤地に白抜きで「天地無用」と書かれたシールが貼られていることがあります。しかし、それだけでは意味が分からない人が少なからずいるからでしょうか、最近では記号やイラストを用いて視覚に訴えたり、「UP」「この面を上」といった情報を書き足したりして、より分かりやすくしようとすする例が多くなっています。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔宅配便で届いた段ボール箱は、天地無用だから、逆さまにしても大丈夫だ。この白い方が気にならないあなた、受け取った荷物は大丈夫でしょうか？「天地無用」という言葉の意味について「国語に関する世論調査」で尋ねたところ、約7割の人が「上下を気にしないでよい」という意味だと回答しました。〕

では、「天地無用」とは本来どのような意味か、辞書で調べてみましょう。

〔広辞苑〕 第6版 (平成25年、岩波書店)

てんちむじょう 〔天(てん)地(ち)無(む)用(よう)〕 荷物、貨物などの包装の外側に記す標で、破損の恐れがあるため上下を逆にしてはいけないという意をいけないう意味の注意。

〔日本国語大辞典 第2版〕 (全21巻)より

てんちむじょう 〔天(てん)地(ち)無(む)用(よう)〕 荷物、貨物などの包装の外側に記す標で、破損の恐れがあるため上下を逆にしてはいけないという意をいけないう意味の注意。

二 この文章では、複数の辞書から「天地無用」の意味が引用されていますが、その効果について説明したものと最も適切なものを選び、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 複数の辞書の記述を取り上げること、「天地無用」の本来の意味について納得できるとしている。

2 発行年の異なる辞書の記述を並べること、「天地無用」の本来の意味の移り変わりが分かるようにしている。

3 複数の辞書の記述を比較すること、「天地無用」の本来の意味が複数あることに着目できるようにしている。

4 一つの辞書の記述に別の辞書の記述を挿入すること、「天地無用」の本来の意味のもつた出来事が分かるようにしている。

三 この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(7) 中学校数学に関する調査結果について

① 領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分 (中学校数学)	A (主に「知識」) の正答率		B (主に「活用」) の正答率	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	66.7	66.1	48.6	46.9
数と式	72.1	71.1	52.9	51.4
図形	68.7	69.1	48.6	46.7
関数	55.8	55.5	54.1	52.8
資料の活用	66.3	63.5	40.2	38.0

② 観点ごとの調査結果の概況

区分 (中学校数学)	A (主に「知識・技能」) の正答率		B (主に「活用」) の正答率	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	66.7	66.1	48.6	46.9
数学への関心・意欲・態度	66.7	66.1	48.6	46.9
数学的な考え方	71.1	70.4	52.8	51.3
数学的な技能	71.1	70.4	52.8	51.3
数量や図形についての知識・理解	63.9	63.3	46.9	45.1

◆ 領域ごとでは、数学Aの「図形」が、全国平均を下回っている。

◆ 観点ごとでは、すべてで全国平均を上回っている。

③ 平均正答率が高かった問題と低かった問題

(正答率が高かった問題)

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
数学A	負の整数を読み取ることができる	95.6	94.6	+1.0
	単項式どうしの除法の計算ができる	91.2	91.0	+0.2
数学B	考察の対象を明確に捉えることができる	90.2	89.5	+0.7
	必要な情報を読み取り、解釈することができる	79.6	77.7	+1.9

(正答率が低かった問題)

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
数学A	一次関数の意味を理解している	37.3	36.4	+0.9
	確率の意味を理解している	38.8	40.2	-1.4
数学B	問題解決の方法を数学的に説明できる	15.2	13.2	+2.0
	数学的な表現を用いて説明できる	9.5	10.4	-0.9

④生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問28	「数学の勉強は大切だと思いますか」	86.7% (全国比 +3.1)
問29	「数学の授業の内容はよくわかりますか」	68.1% (全国比 -2.9)
問33	「学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか」	77.2% (全国比 +4.3)
問35	「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」	68.3% (全国比 -2.1)

(学校に対する質問紙調査結果)

問34	「前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか」	15.9% (全国比 -12.7)
問35	「前年度、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか」	4.3% (全国比 -18.6)
問36	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	94.2% (全国比 +2.8)
問37	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	60.8% (全国比 -5.7)

- ◆生徒質問紙調査では、「数学の勉強は大切だと思う」「将来役に立つと思う」と回答した生徒の割合が全国平均を上回っているが、「数学の授業の内容がよくわかる」と回答した生徒の割合が全国平均を下回っている。
- ◆学校質問紙調査では、補充的な学習の指導に関して、肯定的に回答した学校の割合が全国平均を上回っている。一方で、学習内容の習熟の程度に応じた指導、発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導に関して、肯定的に回答した学校の割合が全国平均を下回っている。ただし、補充・発展の指導に関しては、昨年度の全国比よりも数値は向上している。 ※29年度（補充的な学習の指導：-4.7，発展的な学習の指導：-24.1）

※中学校数学の正答率が低かった問題（数学B 5(2)）

(正答率…市：9.5，全国：10.4 無回答率…市：4.1，全国6.6)

5 里奈さんは、パスワールを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人3500円	1人3200円
団体料金	1人2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 里奈さんが作った表から、S社の場合、団体料金は通常料金の560円引きであることがわかります。この560円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

(2) 里奈さんは、T社の史跡巡りプランの場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求めました。

里奈さんの計算1

団体料金は、通常料金3200円の10%引きだから、
 $3200 - 3200 \times 0.1 = 3200 - 320 = 2880$
 団体料金2880円の10人分は、
 $2880 \times 10 = 28800$
 通常料金3200円の何人分にあたるかを求めるから、
 $28800 \div 3200 = 9$

里奈さんの計算1から、史跡巡りプランの団体料金の10人分は通常料金の9人分にあたるということがわかります。

里奈さんは、T社の他のプランも調べました。その結果、プランによって通常料金は異なりますが、10人以上で利用すると、どのプランでも団体料金は通常料金の10%引きになることがわかりました。そこで、通常料金が変わった場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかについて調べるために、T社の通常料金を a 円として、次のように計算しました。

里奈さんの計算2

団体料金は、通常料金 a 円の10%引きだから、
 $a - a \times 0.1 = a - 0.1a = 0.9a$
 団体料金 $0.9a$ 円の10人分は、
 $0.9a \times 10 = 9a$
 通常料金 a 円の何人分にあたるかを求めるから、
 $9a \div a = 9$

上の里奈さんの計算2からわかることがあります。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの原因を説明しなさい。

ア 通常料金が変われば、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わる。

イ 通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

(3) 中学校理科に関する調査結果について

① 枠組みごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（中学校理科）	福岡市	全国
教科全体	66.7	66.1
主として「知識」に関する問題	68.0	67.9
主として「活用」に関する問題	66.0	64.9

② 領域ごとの調査結果

区分（中学校理科）		福岡市	全国
教科全体		66.7	66.1
第1分野	物理的領域	76.6	74.4
	化学的領域	65.3	65.0
第2分野	生物的領域	71.5	72.5
	地学的領域	59.0	57.8

③ 観点ごとの調査結果

区分（中学校理科）	福岡市	全国
教科全体	66.7	66.1
自然事象への関心・意欲・態度	77.2	74.0
科学的な思考・表現	65.8	64.9
観察・実験の技能	67.6	67.0
自然事象についての知識・理解	69.1	68.7

- ◆ 枠組みごとでは、「知識」に関する問題、「活用」に関する問題ともに全国平均を上回っている。
- ◆ 領域ごとでは、第1分野「物理的領域」「化学的領域」、第2分野「地学的領域」で、全国平均を上回っている。一方、第2分野「生物的領域」で、全国平均を下回っている。
- ◆ 観点ごとでは、すべての観点で全国平均を上回っている。

④ 平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
理科	LEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる	92.5	91.4	+1.1
	音の速さに関する知識を活用できる	95.2	94.4	+0.8

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
理科	風向きの観測方法に関する知識・技能を活用できる	37.6	37.5	+0.1
	湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる	20.5	19.4	+1.1

⑤生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問39	「理科の勉強は大切だと思いますか」	72.7% (全国比 +2.1)
問40	「理科の授業の内容はよくわかりますか」	70.0% (全国比 0)
問43	「学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか」	59.3% (全国比 +3.6)
問62	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (理科)	91.3% (全国比 -1.0)

(学校に対する質問紙調査結果)

問40	「理科の授業において、前年度に児童の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか」	97.1% (全国比 -2.9)
問41	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	88.4% (全国比 -5.0)
問42	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	63.7% (全国比 -5.3)

◆生徒質問紙調査では、「理科の勉強は大切だと思いますか」、「学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」に対し、肯定的に回答した生徒の割合が全国平均を上回っている。一方で、「調査問題の回答時間は十分だった」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っている。

◆学校質問紙調査では、「補充的な学習」と「発展的な学習」を行ったと回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

※中学校理科の正答率が低かった問題 (理科9)(2)

(正答率…市 : 20.5, 全国 : 19.4 無回答率…市 : 18.8, 全国 21.4)

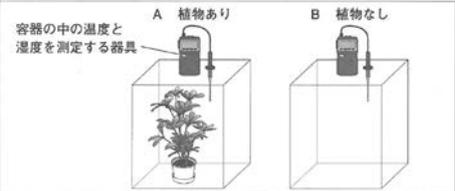
9 健一さんは、乾燥した部屋に鉢植えの植物を置くと湿度が上がって、インフルエンザの予防に効果があると知り、科学的に探究して実験ノートにまとめました。
(1)と(2)の各問いに答えなさい。

実験ノートの一部

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

課題
密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置くと、湿度は上がるのだろうか。

【実験】
容器の中の温度と湿度を測定する器具



A 植物あり B 植物なし

【結果】
AとBの容器の中の湿度は22℃で変わらなかった。

時間(時間)	0	1	2	3	4
湿度 A 植物あり (%)	37	67	87	88	88
湿度 B 植物なし (%)	38	39	39	38	38

【考察】
実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がるといえる。

【新たな疑問】
水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

(1) 下線の植物の働きを何とといいますか。下のAからEまでの中から1つ選びなさい。
ア 光合成 イ 呼吸 ウ 気孔 エ 蒸散

(2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

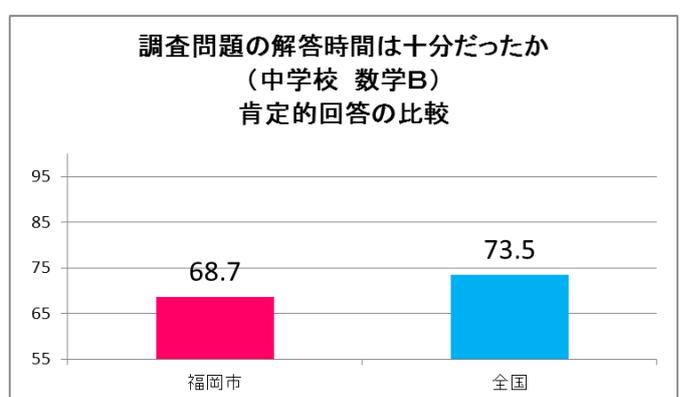
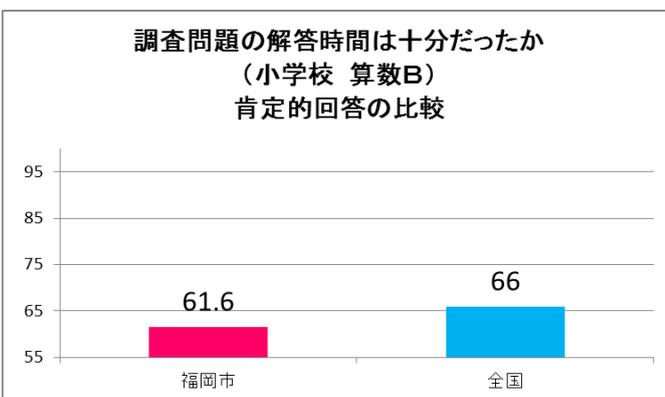
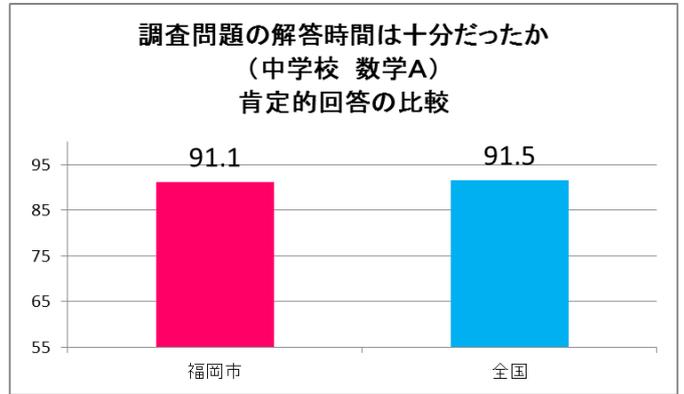
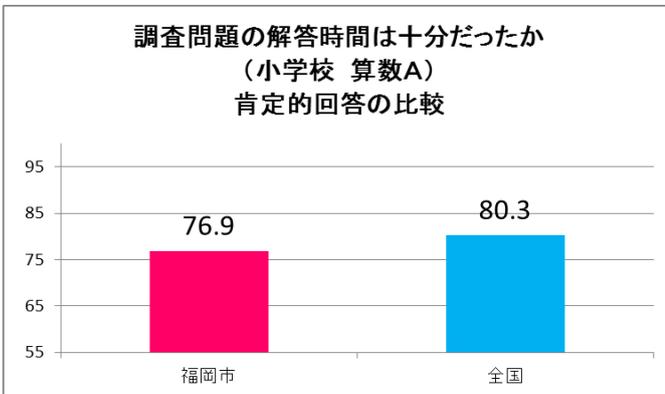
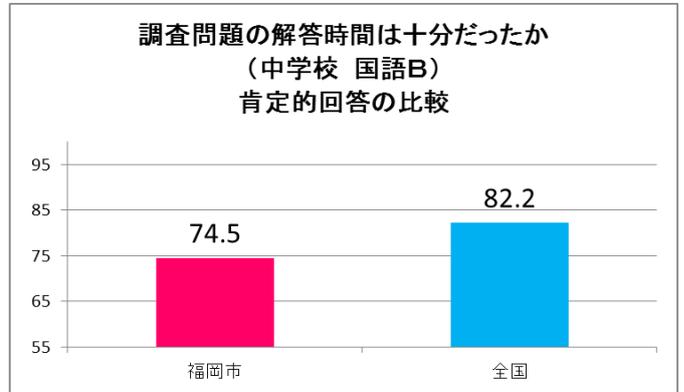
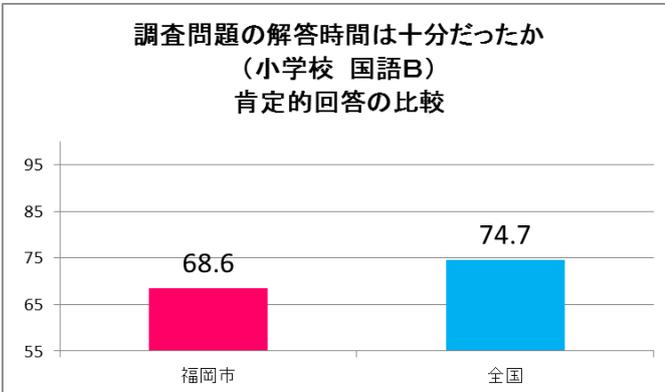
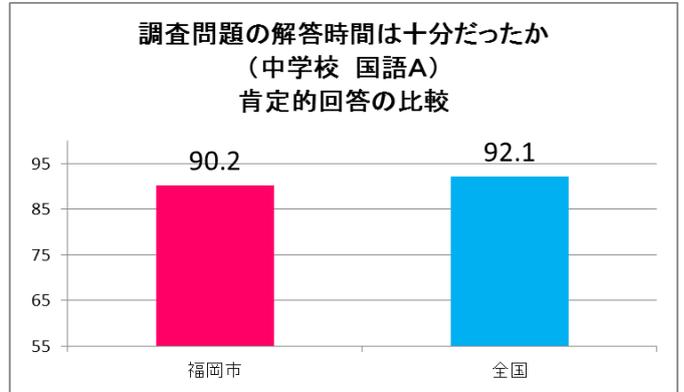
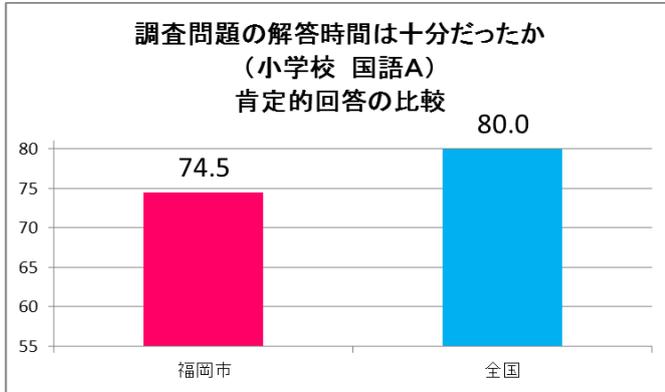
3 問題への取り組みの状況及び無回答率の傾向について

(1) 児童生徒質問紙における，問題への取り組みの状況

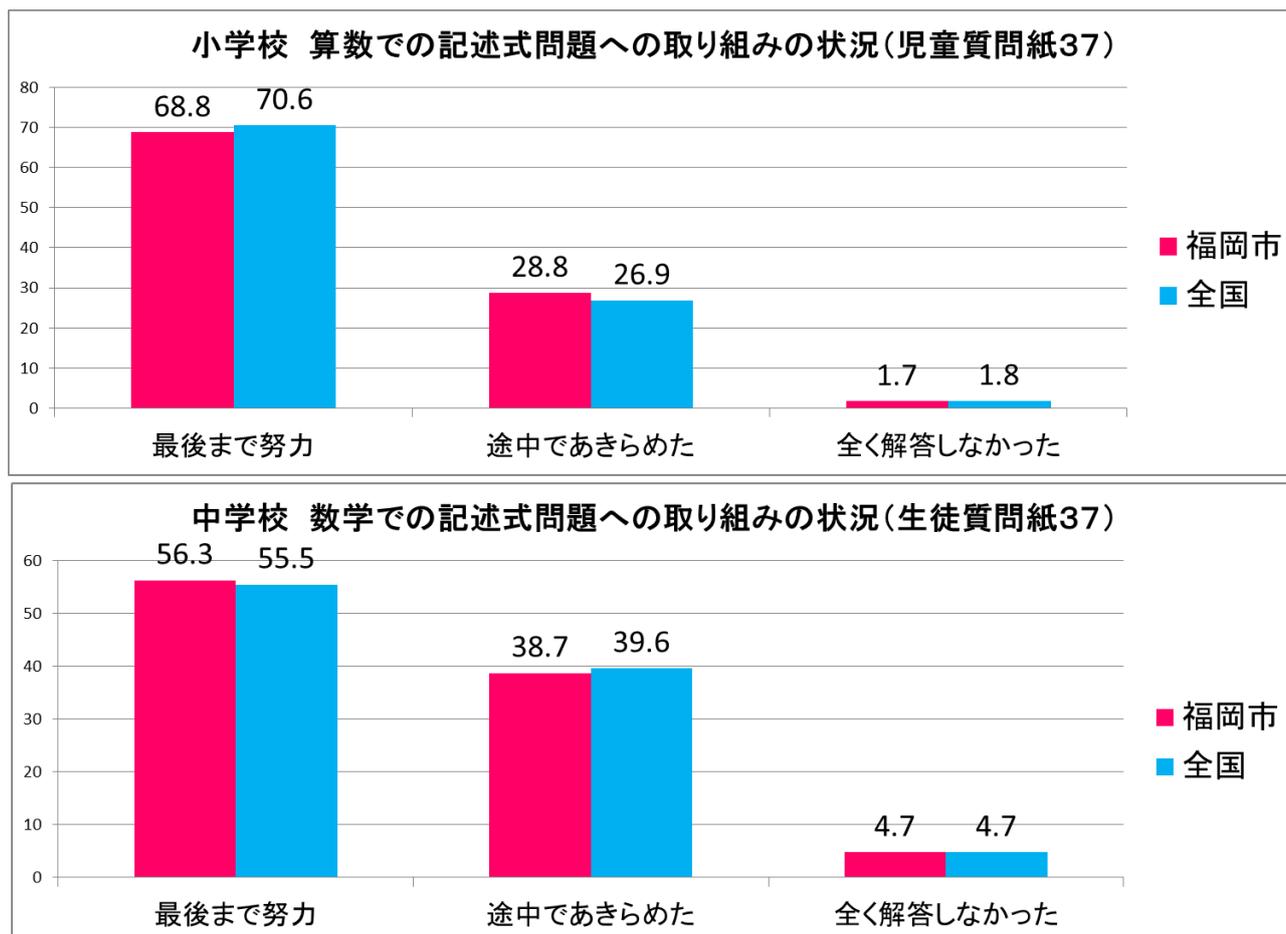
① 調査問題の解答時間に対する児童生徒の意識（肯定的解答）

【小学校】

【中学校】

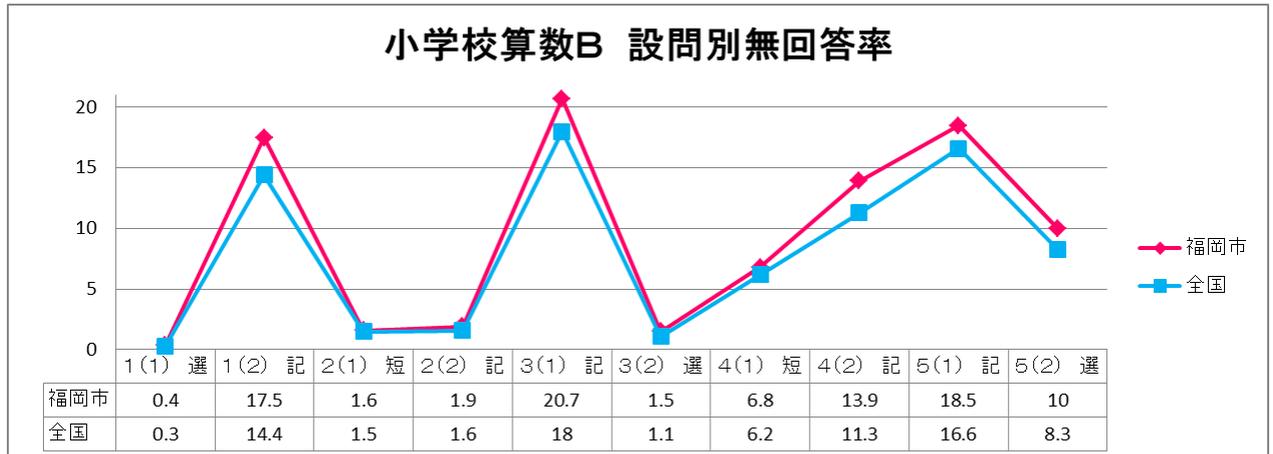
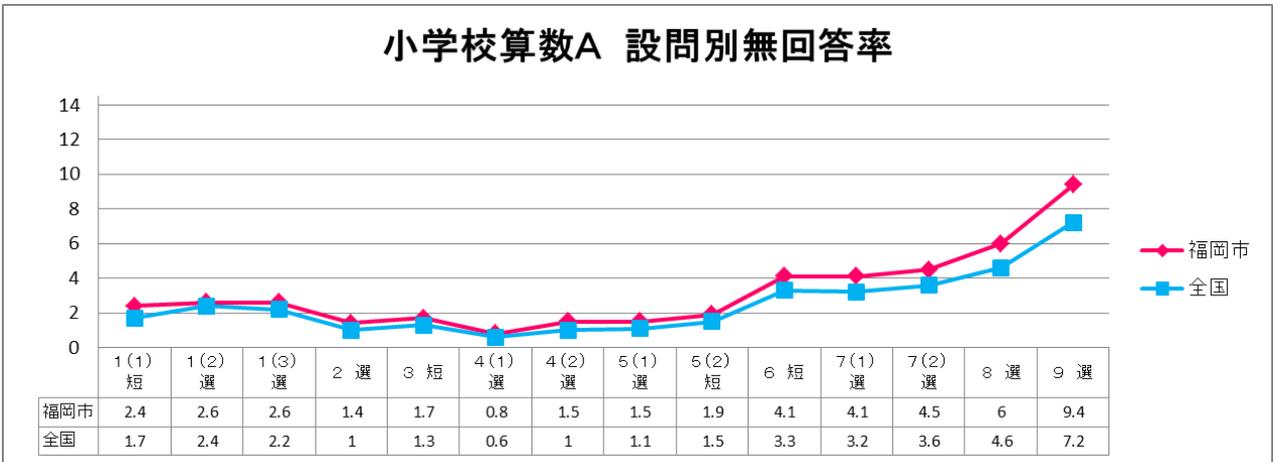
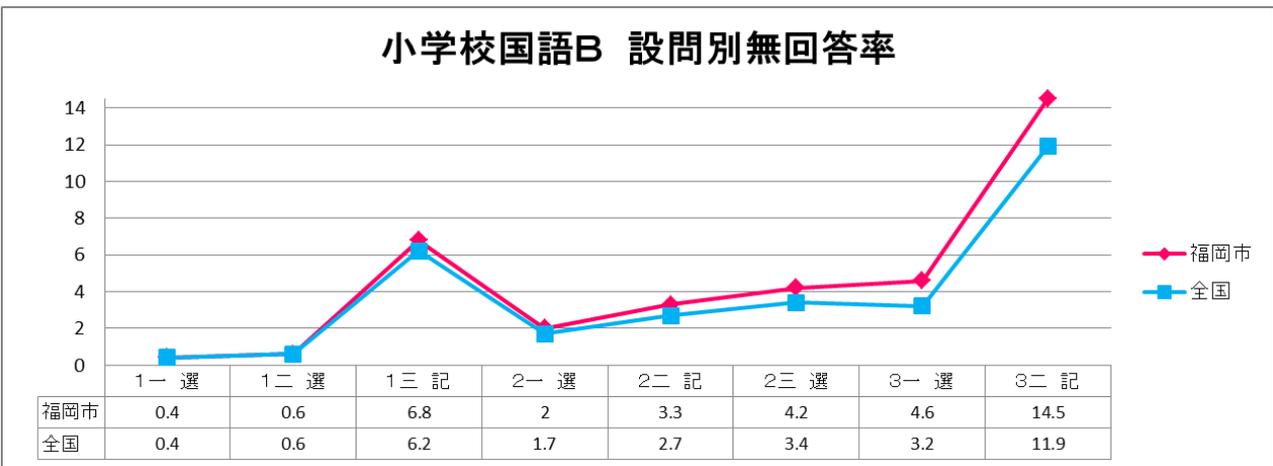
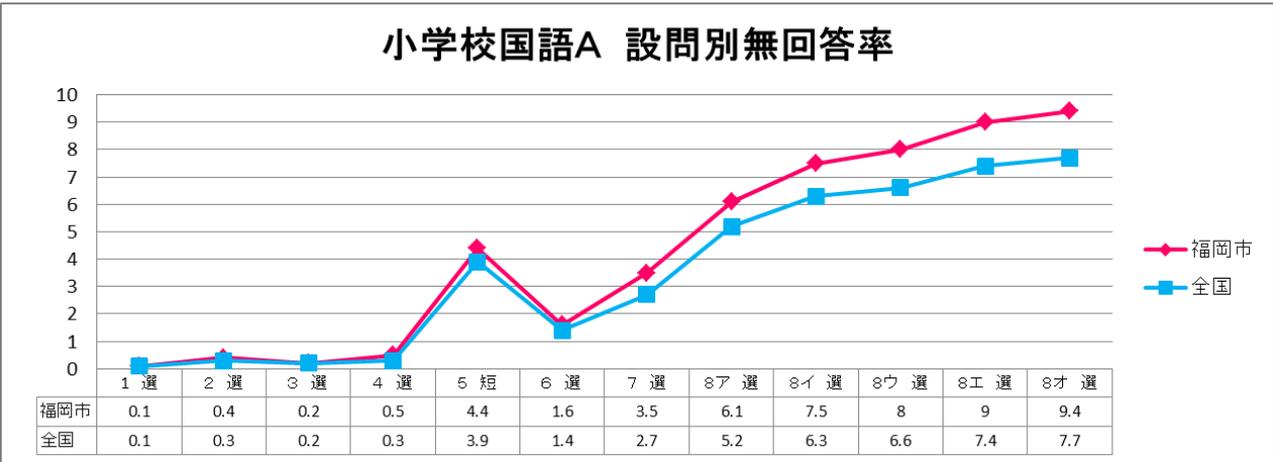


②児童生徒質問紙における算数，数学における記述式問題への取り組みの状況



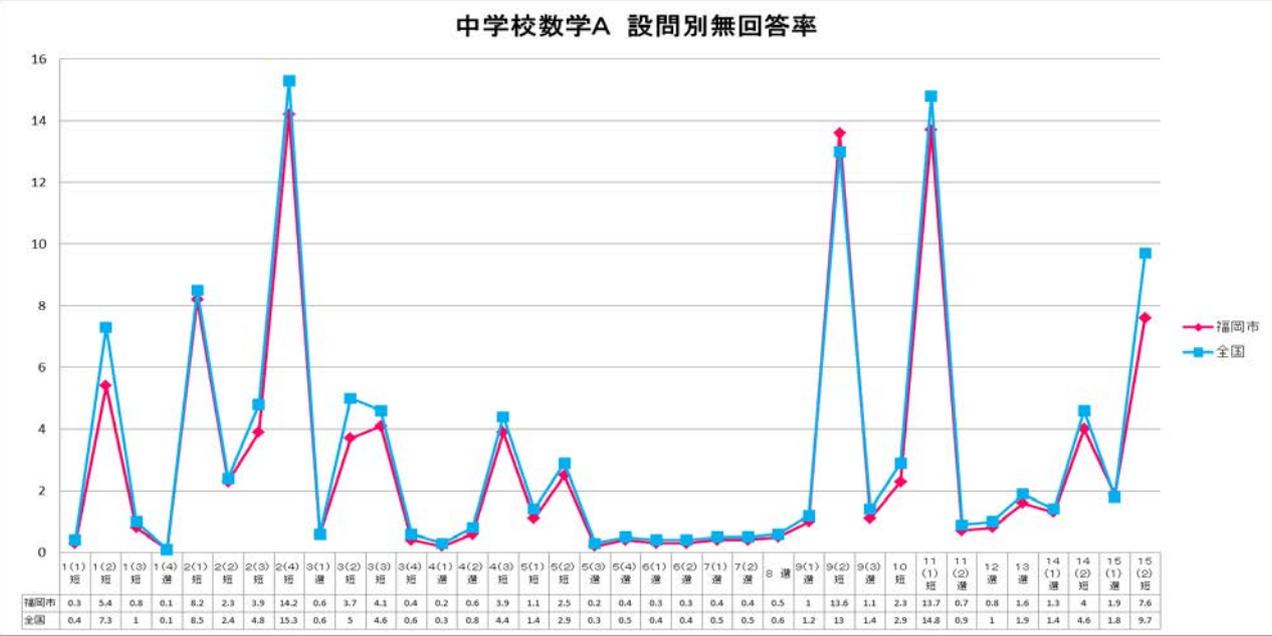
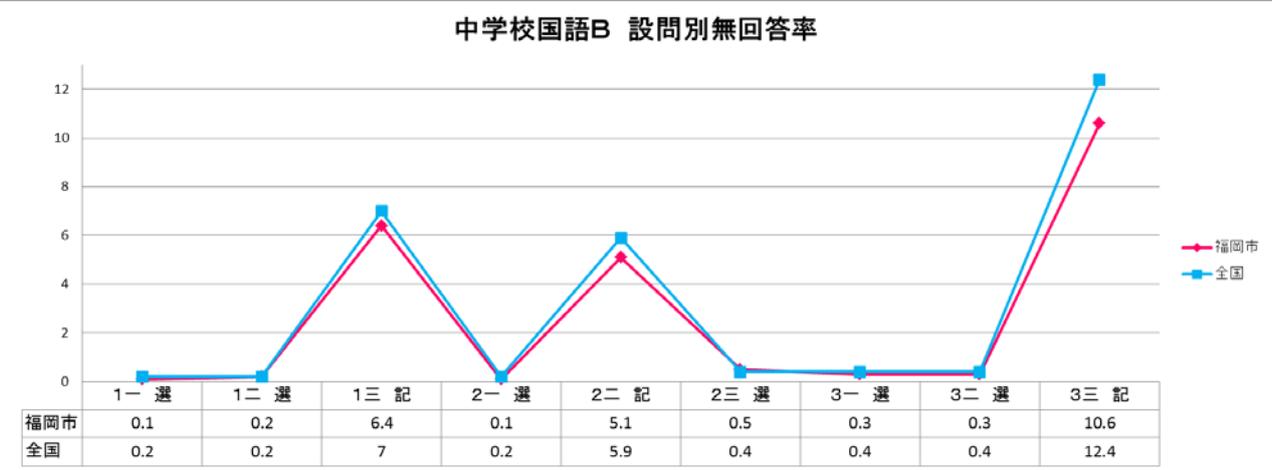
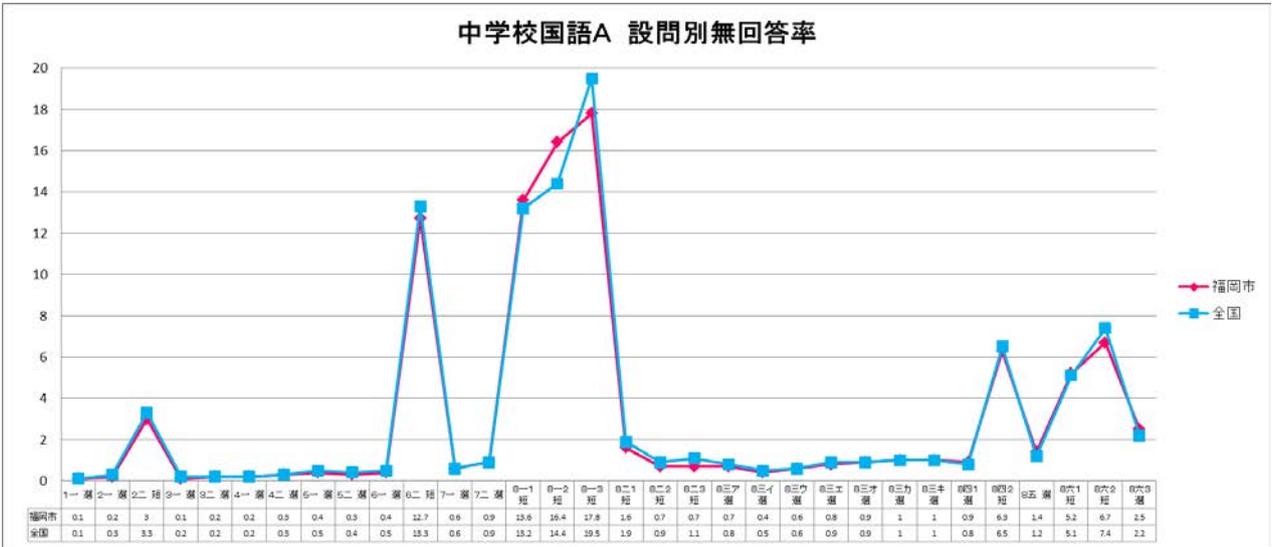
- ◆ 小学校と中学校を比較すると，調査問題の解答時間が十分だったと回答している児童の割合が，中学校よりも少ない傾向にある。
- ◆ A問題とB問題で比較すると，解答時間が十分だったと回答している児童生徒の割合はB問題の方が低い傾向にある。
- ◆ 解答時間に関しては，小中学校ともに全国よりも下回っている。
- ◆ 記述式問題への取り組みの状況では，小学校においては，「最後まで努力」と回答した児童が全国を下回り，「途中であきらめた」と回答した児童が全国を上回っている。一方で，中学校においては，「最後まで努力」と回答した生徒が全国を上回り，「途中であきらめた」と回答した生徒が全国を下回っている。

(2) 小学校 設問別無回答率



- ◆小学校では、国語、算数どちらの調査についても、無回答率が全国平均を上回っている傾向が強い。
- ◆全国の傾向と同じように、国語B、算数Bにおける記述式問題の無回答率が高くなっている。
- ◆国語、算数どちらの調査においても、問題の後半になるにつれて、無回答率が上昇し、全国との差も開いていく傾向にある。

(3) 中学校 設問別無回答率

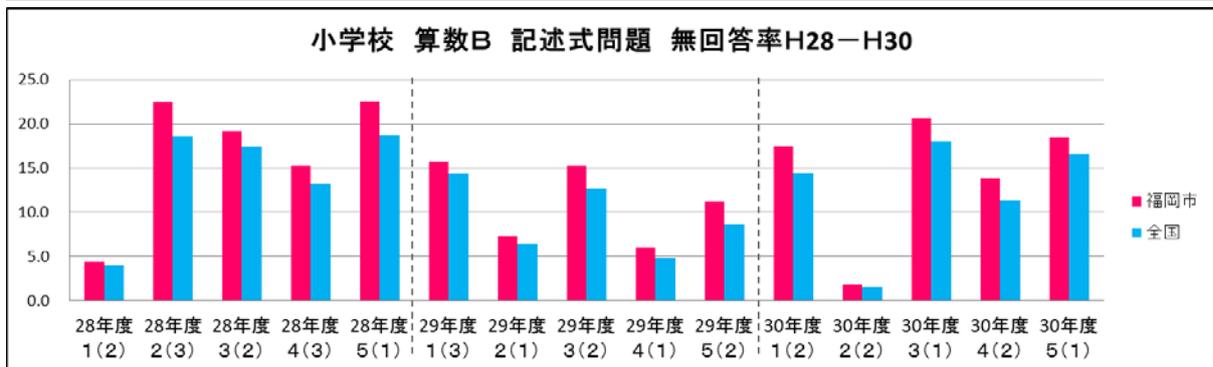
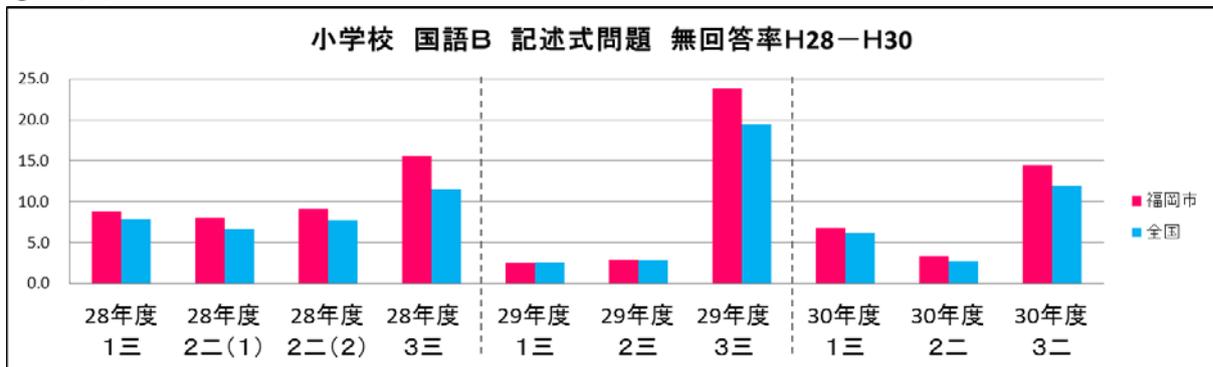




- ◆ 中学校では、国語、数学どちらの調査についても、無回答率が全国平均を同等あるいは下回っているものが多い傾向である。
- ◆ 全国の傾向と同じように、国語B、数学Bにおける記述式問題の無回答率が高くなっている。
- ◆ 小学校に見られた、問題の後半になるにつれて、無回答率が上昇し、全国との差も開いていくといった傾向は、中学校においては見られない。

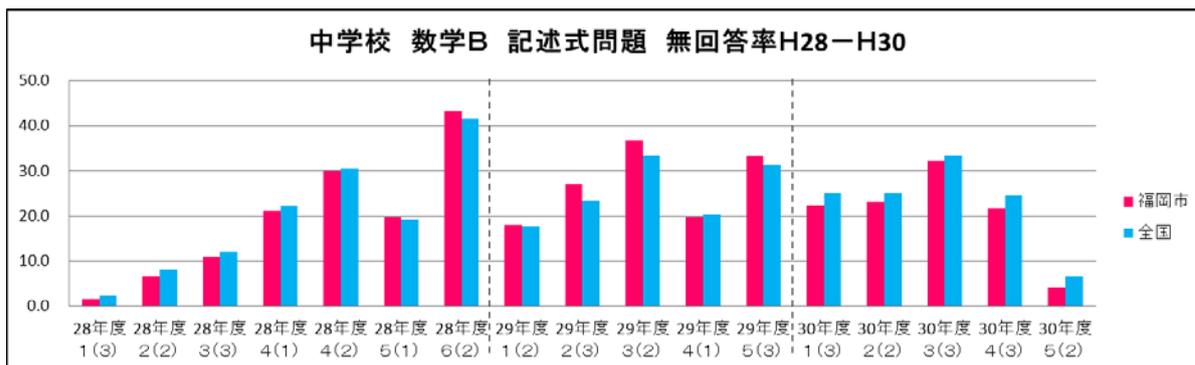
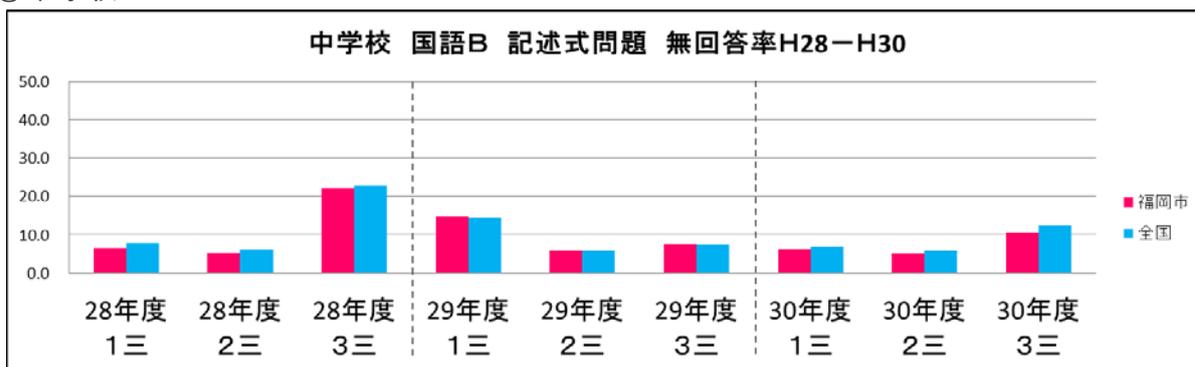
(4) 平成28年度から平成30年度までの無回答率

① 小学校



- ◆ 国語Bでは、平成28年度から平成30年度の3年間、無回答率が全国より高い傾向にある。特に、どの年度も最後の記述式の問題(28年度3三、29年度3三、30年度3二)において、全国平均を大きく上回っている。
- ◆ 算数Bでは、国語Bと同様に記述式の問題の無回答率が全国平均を上回る傾向にある。「考えを書く」活動を適切に取り入れた授業改善の工夫が求められる。

② 中学校

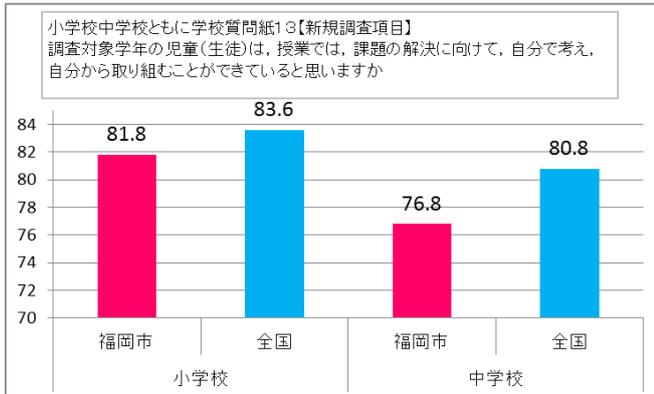


- ◆国語Bでは、平成28年度から平成30年度の3年間、無回答率が全国より低い傾向にある。小学校に比べ、記述式の問題をあまり苦手としていない。
- ◆数学Bにおいては、平成29年度の記述式の無回答率が全国平均を上回る問題が多いが、平成28年度及び平成30年度は、無回答率が全国平均を下回る傾向にあり、国語科と同様に記述式の問題をあまり苦手としていない。

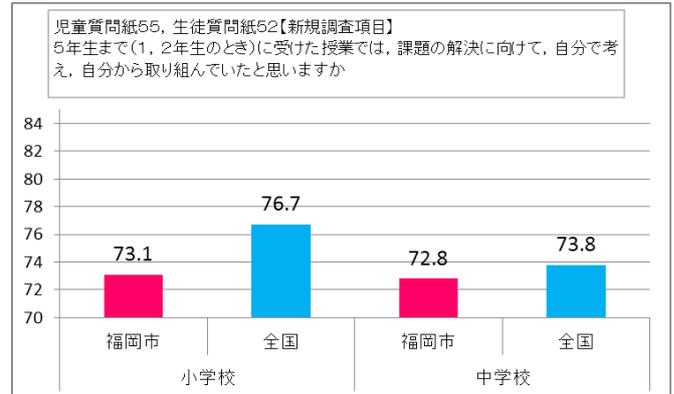
4 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

(1) 新規質問項目の状況

(学校質問紙)



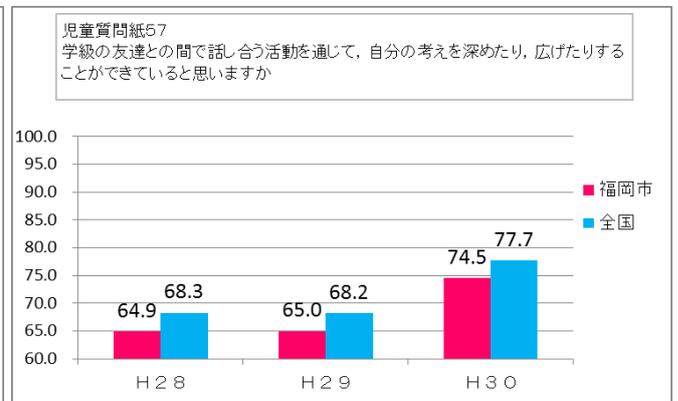
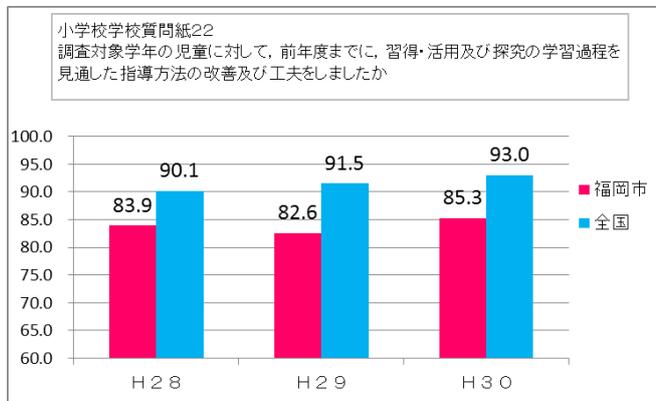
(児童生徒質問紙)



- ◆学校質問紙 13 の「調査対象学年の児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した学校の割合は、小中学校ともに全国平均を下回っている。
- ◆児童質問紙 55、生徒質問紙 52 の「5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を下回っている。
- ◆学校質問紙、児童質問紙ともに、小中学校を比較すると、小学校の方が肯定的回答をした割合が高い。

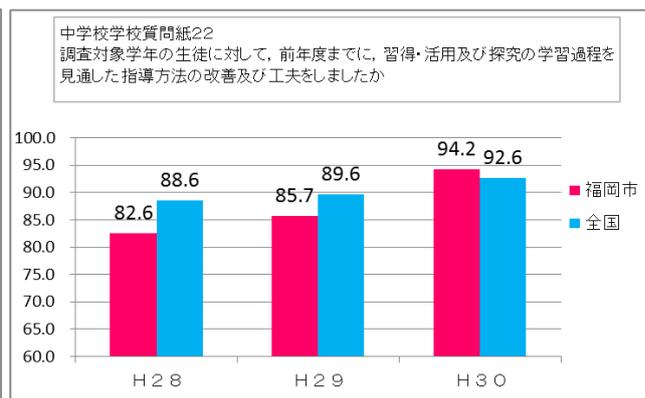
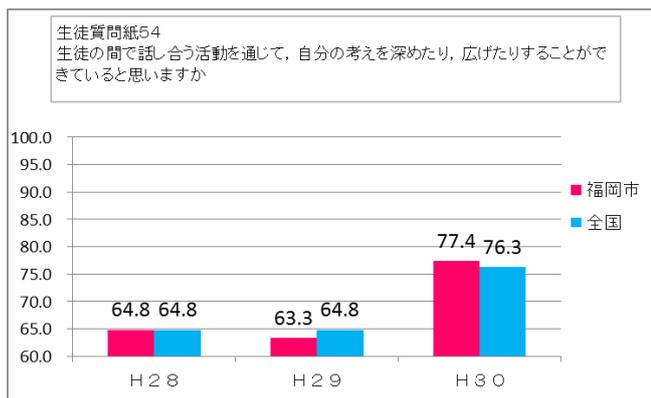
(2) 継続質問項目の状況

①小学校



- ◆小学校質問紙 22 の「調査対象学年の児童に対して、前年度までに習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をされましたか」との質問に、肯定的に回答した小学校の割合は、全国平均を下回っている。
- ◆児童質問紙 57 の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を下回っている。
- ◆学校質問紙、児童質問紙の結果から、「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫」の取組が向上することによって、児童の「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と感じている割合が高くなる傾向にある。

② 中学校



- ◆中学校質問紙 22 の「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」との質問に、肯定的に回答した中学校の割合は、本年度全国平均を上回っている。
- ◆生徒質問紙 54 の「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した生徒の割合は、本年度全国平均を上回っている。
- ◆中学校質問紙は、平成 28 年度から 3 年間、ポイントが向上している。生徒質問紙は、本年度のポイント上昇が顕著である。
- ◆平成 30 年度は、中学校質問紙、生徒質問紙ともに、全国平均を上回っていることから、学校の取組と生徒の意識に相関関係が見られ、各学校の取組の効果が生徒の意識に現れていると推測される。

5 今後の課題

- ◆小学校の平均正答率は、国語A、国語B、算数A、算数B、理科のすべての分類で全国平均を上回り、特に、国語A、国語B、理科で大きな伸びが見られた。中学校の平均正答率も、国語A、国語B、数学A、数学B、理科のすべての分類で全国平均を上回り、特に、数学Bで大きな伸びが見られた。しかしながら、無回答率に着目すると、小学校の無回答率が全国平均に比べて高いことが明らかになった。そのため、各小学校においては、無回答率の傾向を分析し、課題に基づいた取組の実施が求められる。
- ◆昨年比による学校群ごとの学校数については、小学校において中位群や下位群の学校数が増加している。一方、中学校においては、上位群や中位群の学校数が増加している。福岡市全体の平均正答率は、小中学校ともに全国平均を上回っているが、小学校の学校群の変化については、課題が見られるため、各学校の学力課題に合わせた取組の充実が必要である。
- ◆生活習慣に関しては、「朝食を毎日食べていますか」という質問項目に対し、肯定的回答のポイントが小中学校ともに、下降傾向にあることとあわせて、全国平均を下回る値で推移している。文部科学省は、これまでの朝食摂食と学力に相関があると述べていることから、今後も取組の充実を図る必要がある。
- ◆学習習慣に関しては、家庭学習の取組状況に関して、小中学校ともに全国平均を下回った。特に、中学校は、全国平均より低い位置で推移しているため、今後さらに取組の充実を図る必要がある。

6 今後の取組について

(1) 各学校での取組の努力点

- ◆各学校における的確な課題分析に基づいた、個々の学力向上をめざした指導方法の工夫
(主な具体例)
 - ・「考えを書く」活動を効果的に位置付けた指導方法の工夫
 - ・読みの力を高める指導方法の工夫
 - ・主体的・対話的で深い学びに関する指導方法の工夫
 - ・少人数指導の積極的な活用や補充・発展の時間の有効的な活用
- ◆学校での学習の定着度に応じた家庭学習の工夫
(主な具体例)
 - ・学習意欲を高める内容や方法の工夫
 - ・正答率が低かった問題の学び直し

(2) 教育委員会としての取組

- ◆算数A・数学Aの設問番号と、「みんなの学習クラブ（iプリ）」番号との関連表作成と各学校への通知（平成30年6月14日付 教指指第84号で通知，FINE掲載済み）
- ◆学力向上のための指導資料を活用した，指導主事による学校訪問での指導（10月以降を予定）
 - ・各学校の学力課題や生徒指導上の課題に応じた学校との双方向的な協議
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関わる指導助言
- ◆「学力向上のための研究大会」の開催（11月29日）
 - ・学力課題に応じた指導事例の紹介
 - ・取組内容の共有
- ◆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた『授業改善の手引き』の作成（3月末を予定）